

座長あいさつ

この度、外部評価委員会として平成 23 年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、福原義春館長に提出しました。

東京都写真美術館は、「存在感のある美術館」を中・長期的なミッションとしておりますので、そのミッションの具体的な事業運営項目に沿って、評価を行いました。

平成 23 年度の評価では、①作品収集、作品管理、調査研究において、館の収集基本方針や収集指針が明確に立てられており、方針や指針に基づく収集や作品管理が適切、的確に行われていること、②展覧会では、調査研究に裏づけされた企画や、質が高く、きめの細かい展覧会企画をバランスよく提供し、来館者の満足度を前年にも増して高めていること、③昨年 3 月の大震災の影響を受けつつも、集客に向けた努力と工夫によって、目標数を大きく上回る来館者を迎えたこと、さらに、④陸前高田市立博物館の東日本大震災による被災資料の修復、写真データの保存に尽力し、震災復興活動の一翼を担っていること、などに着目しました。

また、当館を支援していただく企業・団体等の支援会員について、引き続き良好な関係を築いていること、さらに、この経済状況下において、過去最高の支援会員数を獲得するとともに、支援会員に対するケアも適切であり、他館の見本となるような活動ぶりに高い評価をいたしました。

一方、各種事業に依りて、業務に見合う人材面の確保、地域等との繋がりを強める連携の推進において、一層取組みを強化していただきたい課題も残されています。さらに、今後予定されている大規模改修工事にあたっては、建物のハード面での使いにくさが少しでも改善されるよう期待しているところであります。

当委員会では、この評価が東京都写真美術館の今後の事業運営の改善、発展の一助となることを目的としていることから、各委員から寄せられた提言、課題等に着実、迅速に取り組まれるよう期待するものです。

平成 24 年 7 月 27 日

東京都写真美術館外部評価委員会

座長 樺山 紘一